

諏訪市文化センター大規模改修

基本設計業務完了に伴う 市民向け報告会

令和6年4月21日 於：諏訪市文化センター 第2集会室

目次

1. 市民説明会等開催後の意見と対応
2. 改修内容①（平面計画）
3. 改修内容②（建築・設備計画）
4. 改修内容③（省エネ計画）
5. 基本設計における事業費
6. 引き続き検討する事項

1. 市民説明会等開催後の意見と対応

結果

▶意見件数 合計 48件

(対応別内訳)

【○】基本設計に反映する…4件

【検討】引き続き検討する…25件

【×】検討した結果、基本設計に反映しない…8件

【－】意見や質問など…14件

※1つの意見に対して複数の対応が該当する場合があるため、意見件数と対応別内訳の合計は一致しません。

詳細

No.	内容	対応	詳細
1	多目的トイレや子ども用トイレを設置してほしい。	○	基本設計に反映します。
2	女性トイレに子ども用トイレを設置してほしい。	○	子ども用トイレを多目的トイレ内に設置することで対応します。
3	授乳室やトイレにおむつ替えシートを設置してほしい。	○	基本設計に反映します。
4	親子観劇席の近くに授乳室等が同じ動線上にあると良い。	○	基本設計に反映します。
5	現在の緞帳を再利用する方法を検討してほしい。	検討	基本設計としては撤去することとしますが、保存・活用については引き続き検討してまいります。
6	現在の緞帳を再利用してほしい。	検討	No. 5参照
7	緞帳について、再検討して残す方向で考えていただきたい。もし駄目だったら、保存方法について慎重に検討していただき、バラバラに壊してしまうようなことは絶対に避けていただきたい。	検討	No. 5参照
8	緞帳は現行のままで維持するように検討してほしい。	検討	No. 5参照
9	緞帳の撤去と廻り舞台の撤去は再考できないか。音響の改善ができないのであれば、文化センターの芸術・文化利用の意義がなくなってしまう。	検討 ×	・緞帳については、No. 5参照 ・廻り舞台については、当館の特徴の一つと言えますが、廻り舞台を使用する場合、舞台の形状が特殊なため舞台後方のスペースが狭いなどの演出の制限があり、幅広い演目で使用することが難しいと考えています。また、舞台上の段差や隙間による危険性も指摘されています。これまでの使用頻度および修理費やメンテナンス費など費用対効果、また安全性の観点から現在の廻り舞台は撤去し、床の張り替えを行う計画です。

1. 市民説明会等開催後の意見と対応

詳細

No.	内容	対応	詳細
10	反響板の設置を検討してほしい。	検討	基本設計としては設置しないこととしますが、引き続き検討してまいります。
11	3/9の説明会では意見の交換ができる十分な時間がなかった。反響板の設置について質問したが、設置の効果が薄いという回答の根拠は何か。音楽協会はこれまで響きの良いホールの建設要望のため、東京、名古屋、静岡、埼玉、山梨、長野県内のホールを見学、研修してきた。このホールのどこをみても反響板のないホール（あるいはシューボックス型ホールは壁が反響板の役割）はない。この度の文化センターの改修の重要な点はホールの改修ではないのか。たくさんの会議室や通路などいろいろやりすぎて、目的をもっと絞って効果のある改修をしてもらいたい。文化センターはこの諏訪圏の中心であり、諏訪市のど真ん中にあるのに諏訪市民（音楽団体）が利用できない。音楽団体は反響板のないこのホールは利用できないと思う。カテゴリー別提案募集の中の大きな位置を占めている「音響」は、音響機器の更新や設備ではなく、アコースティック（生音）の響きを要求したものである。	検討	No. 10参照
12	音響関係の要望が多いので、現行設備・形状を変えずに内壁面の素材で音響を今より良くできないか。ベストではなくベター。	検討	引き続き検討してまいります。
13	意見として提出した案について、音響効果の向上のため矩形形状を基本としたが、基本的デザインイメージを確保するため、観客席の一部が異形となる。この状態での音響効果向上は専門家の判断に委ねる。その際、観客の動線及び非常口設置などは、消防関係法令に適合させる。併せて、柱部の削除による耐震強度対策は確実に行う。 また、音響効果のため、反響機能材なども適切に使用を要望する。	× 検討	本改修は、文化庁に認定された保存活用計画に則り、さらには文化庁の承認を受けた技術指導者の指導のもと、保存と活用の両面から段階を踏んで進めております。保存活用計画に示した基本方針である「市民ホールとしての公開活用を継続しながら、可能な限り建築当初の姿を保存すること」に基づき、舞台については、文化センターの歴史的価値に加え、文化財としての価値を表す箇所であることから、形状を変えるなどの改修は難しいと考えています。 反響機能材の使用については、引き続き検討してまいります。
14	エネルギー棟、貯水槽の水害対策を検討してほしい。	検討	引き続き検討してまいります。
15	太陽光発電を設置する場合PPAを検討してほしい。	検討	引き続き検討してまいります。
16	ガラス飛散防止フィルムの対応を検討してほしい。	検討	引き続き検討してまいります。
17	集会室を着替えて使用する場合も想定して検討してほしい。	検討	引き続き検討してまいります。
18	3階の映写室の取り扱いを検討してほしい。	検討	引き続き検討してまいります。
19	親子観劇室と音響・照明室の場所が逆の方が使いやすいと思う。	検討	引き続き検討してまいります。
20	技師がステージに向かう動線が遠すぎるため、親子室と音響照明室の配置は逆が良い。	検討	No. 19参照
21	音響操作と照明操作をあの部屋に配置するのは狭くて無理があると思う。	検討	引き続き検討してまいります。
22	1階のリハーサル室の前の廊下が細いので広げてほしい。	検討	引き続き検討してまいります。
23	2階の避難時の動線を考慮した再検討を。	検討	引き続き検討してまいります。
24	旧東洋バルブの跡地など周辺施設も含め、使いやすい駐車場の検討をお願いしたい。	検討	引き続き検討してまいります。

1. 市民説明会等開催後の意見と対応

詳細

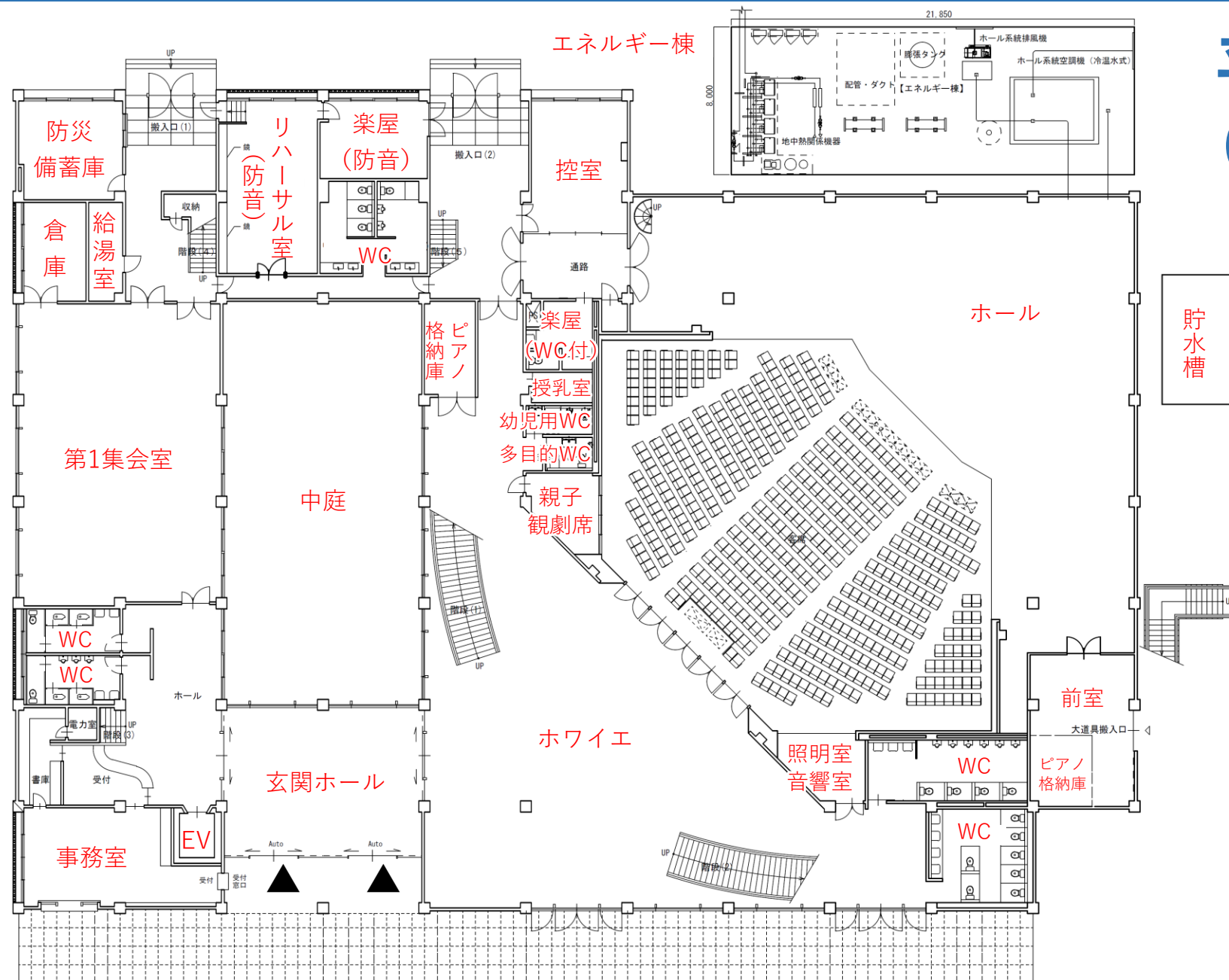
No.	内容	対応	詳細
25	ピアノ格納庫は Horizont 幕の後方に設置し、数千万円のピアノを保管するので温度湿度管理システムを設置してほしい。	× 検討	Horizont 幕の後方は格納スペースが狭いため、ピアノの格納は難しいと考えていますが、ピアノの保管については、引き続き検討してまいります。
26	フリースペースは、使用していない時は館全体にしたらどうか。	検討	今後立ち上げる検討組織の中で検討してまいります。
27	親子観劇席が空き部屋にならないように計画してほしい。	検討	今後立ち上げる検討組織の中で検討してまいります。
28	今後の実施設計の中で利用者も入れて、話し合いをさせていただきたい。	検討	今後立ち上げる検討組織の中で検討してまいります。
29	利用者の視点を取り入れていない。実施設計では利用者を入れて案を練ってもらいたい。	検討	No. 28参照
30	バックヤードがない。搬入口の利便性が悪い。この点を心配している。	×	搬入口は段差解消など実施しますが、大きな変更は予定しておりません。
31	中庭に廊下を作ってエレベーターから直接入れるようにしてほしい。	×	文化財保存の観点（玄関から中庭の状況が変更となる）から中庭にエレベーターを作ることは難しいと考えています。
32	入場者のもぎり後の動線やエレベーターを利用する対象者（足の弱い方々・体力のない方）のことを考えると、計画の位置はあり得ない。ピアノ格納庫の位置にエレベーターを設置するのが良い。	×	2階客席については、現状の席数を維持するためには、現在同様通路は急な階段とするしか方法がないため、エレベーターで上がった後の安全確保が難しいことから、1階での利用を考えていただく事を想定しています。また、ホワイエは保存活用計画では「保存部分」にあたるため、文化財保存の観点からエレベーターを設置するのは難しいと考えています。
33	耐震・防災（避難所）の経費だけで30億円の費用がかかっている（説明資料P17）。もう少し文化的・芸術的改修に力を入れてほしい。	×	保存活用計画の中でも安全性の確保は最優先されと考えており、その上で舞台装置や音響設備など、利用者の利便性や快適性に考慮した改修を検討しています。耐震や防災など、安全の確保としての費用は約21億円（直接工事費のみ）を見込んでいます。
34	本件建物は建築基準法施行令第79条に求められている基準を満たしていないので違法建築である上、杜撰な工事により雨漏りが発生している。現下の状況からして文化センターの建物はすでに有形文化財としての資格は消失している。文化センターの建物はすでに耐用年数が経過しており、ここで大改修をしたとしてもその耐用年数は新築の半分以下と想像されるので合理的ではない。よって、本計画は白紙にもどし、未来志向の建物に建て替えるのが望ましい。	×	文化センターは昭和37年竣工で各種現行法との適合の確認が必要であるため、基本設計業務では法適合の調査を実施しており、現行法に適合するように改修を実施する計画です。これまでの経過を踏まえて、改修を進めていきたいと考えています。
35	ランニングコストについて算出できるのか。	-	現時点での算出は難しいと考えていますが、ランニングコストの算出については必要であると認識しています。
36	エネルギー棟、貯水槽の規模で金額が大きく変わると思うので、この説明が必要だと思う。	-	・エネルギー棟については、縦8,000mm×横21,850mm×高さ10,000mmの2階建てを計画しています。内部には、空調関係の機器やキューピクル（電気設備）、発電機、蓄電池などの電気機器などが入る予定です。 ・貯水槽については、約40m ³ のタンク容量を計画しています。
37	エネルギー棟の詳細がほしい。 （能登半島地震では最大の問題はライフラインが2か月以上過ぎても完全に復旧していない。電気と飲料水、トイレの水の水源が生命線である）	-	No. 36参照

1. 市民説明会等開催後の意見と対応

詳細

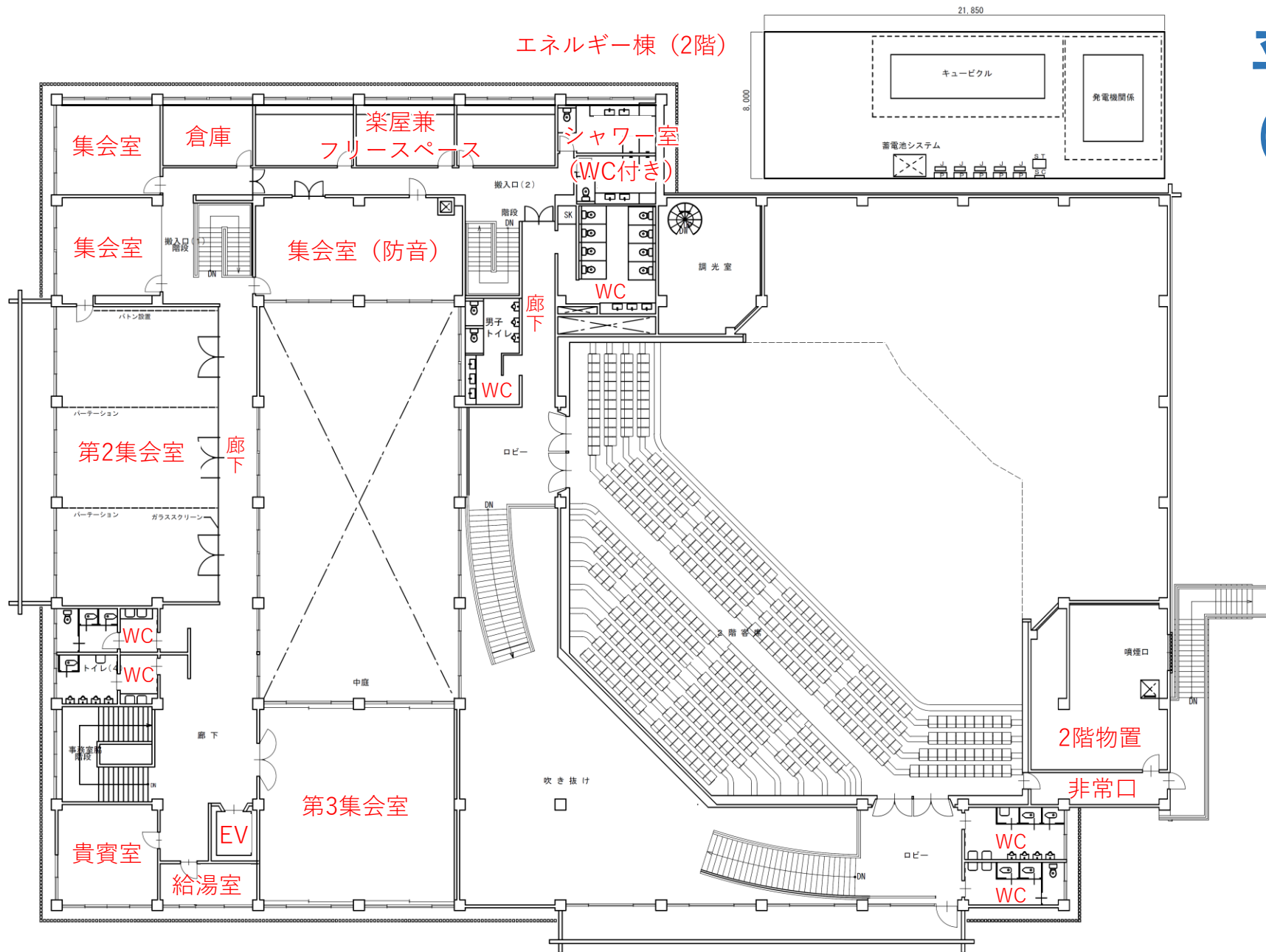
No.	内容	対応	詳細
38	湖の氾濫による水害は全く問題ないのか。	-	湖の氾濫などによる越水（周辺が浸水するような大規模な水害）については、全く問題ないとは言えませんが、少なくとも新設するエネルギー棟2階部分に電気設備を設置することにより、浸水により電気が使用できない事を回避します。また、雨水排水系統の設備も更新することで、水害対策を行う計画です。
39	ソフト事業の61件の内容が見えない。主な内容を開示してほしい。	-	これまでいただいたご提案・ご意見について、まとめた資料を近々に公開する予定です。
40	説明会を各地区で行ってほしい。	-	説明会の開催場所については、必要に応じて検討するとともに、今回のようなオンライン配信も活用していきたいと考えています。
41	改修業者の名称を資料に乗せてほしい。（建屋、機械設備、電気設備の元請け業者）	-	現在、設計を行っている段階であり、工事業者は決まっておりません。
42	広大な東バル跡地は、文化センターを含め総合的な開発計画の上で、機能的な開発を進めてほしい。（映画館、レストランなども盛り込んでほしい）	-	ご意見として受け止めました。
43	諏訪市には「舞台技術者協会理事」を務める専門家が住んでいる。改修に関しては、アドバイスを求めるのも良いのではないのか。	-	ご意見として受け止めました。
44	5月の基本設計の説明会の時でも良いので、大まかな3ヶ所（旧東バル跡地、西口、文化センター）の予想される総額と、その中で文化センターがいくらかなのかというものを出示していただけたらありがたい。	-	ご意見として受け止めました。
45	金額について、青天井ということにはいけないので、考え直すラインを出さないといけない。	-	ご意見として受け止めました。
46	市の財政体力と償還力を考慮した上限値を明示してほしい。	-	ご意見として受け止めました。
47	吊物の改修には期待している。現在の綱元はホリゾン幕の後ろにあり機能しない。	-	ご意見として受け止めました。
48	資料を見て思うのは、今回の文化センター大規模改修は、諏訪市にとって必要のない事業だと思う。特に一般財源6億円は小中学校統合に使う方が現時点で有効活用である。また、地方債24億円は、結局諏訪市民の将来負担となるわけで、次世代のための学校設備なら価値があるのに文化センターはそれほど価値はないと思う。文化センターの改修はぜひやめていただきたい。	-	ご意見として受け止めました。

2. 改修内容①（平面計画）



平面図
(1階)

2. 改修内容①（平面計画）



平面図 (2階)

2. 改修内容①（平面計画）

集会室の増設とリハーサル室の新設

▶集会室の増設（3室→8室）

- ・第2集会室に可動壁を設置します。
- ・2階のバックヤード部分に集会室を増設します。



▶リハーサル室の新設

- ・1階にリハーサル室を新設します。
- ・楽屋としても使用可能とすることでホール使用者の利便性を高めます。



賑わいの創出

▶ホワイエなどの活用

- ・ホワイエはホール使用时以外は開放し、テーブルやソファを設置することで憩いの場として整備します。
- ・芝生や中庭との回遊性も考慮した設計とします。



▶フリースペースの設置

- ・ホール使用时以外は、2階の楽屋を勉強や仕事など自由に活用できるように開放します。



周遊性の向上

▶廊下の新設

- ・第2集会室およびホワイエ2階部分に廊下を設置することで、利用者の周遊性を向上します。



快適性の向上

▶トイレの増設・洋式化

- ・ホワイエ2階の女子トイレを増改設し、バックヤードのトイレおよびホワイエ1階の幼児用トイレを新設します。
- ・館内全てのトイレを洋式化するなど、快適な衛生環境を整備します。

▶楽屋周辺の更新

- ・1階に楽屋として利用できる部屋を新設します。
- ・2階楽屋は快適な空間にリニューアルします。
- ・楽屋付近にシャワー室を設置します。

▶親子観劇室および授乳室の新設

- ・子育て世代でも気軽に利用いただけるように、親子で一緒に観劇できる部屋および授乳室を新設します。

▶Wi-Fiの設置

- ・利用者の利便性だけでなく災害時の活用も視野に入れ、全館で利用できるWi-Fi設備を設置します。

2. 改修内容①（平面計画）

ホール内の機能向上

▶音響設備の更新

- ・講演会や言葉を聞かせる演目に適した当館の特徴を活かしながら、音響設備の更新により音響の改善を図ります。



▶緞帳の撤去と幕の更新

- ・劣化及び安全性の観点から既存の緞帳は取り外し、意匠を考慮したオペラカーテンに変更します。今後、取り外した緞帳の保存や活用方法を検討します。



▶廻り舞台の撤去

- ・安全性および費用対効果の観点から現在の廻り舞台は撤去し、隙間や段差の解消をするために床の張り替えを実施します。



▶舞台吊物の更新

- ・安全性確保のため現在の吊物機構を撤去し、舞台の使いやすさを考慮した設備に更新します。



バリアフリー化

▶エレベーターの設置

- ・玄関付近に2階の第3集会室前に通じるエレベーターを設置します。

▶車椅子スペースの設置

- ・ホール1階の後方に車椅子で鑑賞できるスペースを設置します。

▶その他

- ・玄関入口や搬入口の段差解消、ホワイエ入口の自動ドア化など、バリアフリーの観点で整備します。

広域避難所としての機能強化

▶避難スペースおよび非常用電源の整備 防

- ・災害時の避難スペースを拡充し、非常用電源（約24時間利用想定）からの電力供給により避難箇所の電気をまかさないです。

▶貯水槽の設置 防

- ・災害時に使用できる貯水槽を設置します。

▶給湯室および防災備蓄庫の設置 防

- ・現在の調理室を給湯室に変更し、毛布や非常食、防災テントなどを格納する防災備蓄庫を整備します。

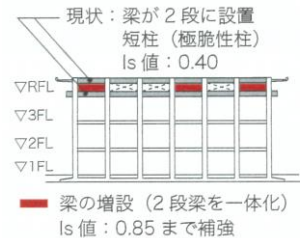
3. 改修内容②（建築・設備計画）

耐震・特定天井・長寿命化

▶耐震補強 防

- ・耐震診断では判定指標を下回る箇所があったため、大掛かりな補強ではなく部分的な補強により工事費を低減します。
- ・既存の耐震強度に沿った適切な耐震補強により、Is値※（構造耐震指標）は0.75以上を目標とします。

※建物の耐震性能を示す指標で、0.6以上で大規模な地震に対して倒壊の危険性が低いとされている。



▶長寿命化 防

- ・陸屋根の防水加工やホール屋根の葺き替えを実施します。
- ・内装/外装の改修を実施します。

▶特定天井（ホール）の解消 防

- ・天井の耐震化に伴い、現在の天井を全て取り換えます。
- ・当館の特徴である天井の意匠（形状）を継承しつつ、安全な構造での改修を実施します。

機械設備

▶空調設備 防

- ・空調設備システムは、空調のゾーニングによる設備の最適化をすることで利用者の快適性向上を目指すほか、省エネや防災の観点等を考慮した方式とします。

▶エネルギー棟の新設 防

- ・既存の電気/機械室を別用途に有効活用するため、文化センター諏訪湖側の外へエネルギー棟を新設します。
- ・エネルギー棟の地下に消火水槽を設置し、安全性を担保しつつ、外観を損なわない設計とします。

電気設備

▶照明

- ・館内全体の照明を更新し、LED化による省エネと保守性を視野に快適な照度と意匠を考慮した設計とします。



▶映像音響設備

- ・スピーカーの位置の見直しを含め、当館に適したホール音響機器に更新します。
- ・ホワイエや楽屋等で舞台の様子が確認できる舞台モニタリングシステムを導入します。



4. 改修内容③（省エネ計画）

省エネ基準の目標

諏訪市ゼロカーボンシティ宣言における脱炭素化社会を目指すため、施設の利用形態と省エネ技術の費用対効果を検討し、 $BEI \leq 0.8$ を目標とします。

※ BEI：設計一次エネルギー消費量/基準一次エネルギー消費量
※「官庁施設の環境保全性基準」による水準： $BEI \leq 0.9$

本施設の利用形態と実績を踏まえた省エネ対策の方針

- ・費用対効果を検討し、実効性が高い技術から優先的に改修
- ・諏訪市の気候風土、施設の利用形態に合わせた適切な設備方式の採用
- ・老朽化対策だけでなく、利用者の快適・安全性を考慮した技術導入
- ・建物の長寿命化を見据え、メンテナンス性に配慮した計画
- ・省エネ技術の見える化による市民の環境に対する意識向上

建物の高断熱化

▶ 屋根（外断熱）

屋根下地の更新、ホール天井の耐震化に伴い、屋根材を遮熱鋼板に葺き替えます。

▶ 開口部（一部更新）

軽量で容易に開閉可能な高断熱アルミサッシに改修します。

▶ 壁（内断熱）

外観意匠を損なわないように、内断熱で改修します。



諏訪地域の特性を活かしたサステナブルな建築

▶ 長い日照時間を活かした太陽光発電パネルの設置 防

外観への影響や荷重負担を考慮し、太陽光パネルは駐車場への自立型設置とします。また、施設の夜間利用や災害時対応を踏まえ、蓄電池を併せて設置します。

—— 2系統で計画 ——

蓄電池用太陽光パネル

→ 蓄電池（災害時対応）

自家消費用太陽光パネル

→ 照明・コンセント給電

▶ 化石燃料から電気・ガスへの変更

ホールの暖房で使用している主燃料を化石燃料から電気・ガスに変更することで、CO2排出量を削減します。

5. 基本設計における事業費

事業費

総額			
39億4000万円			
耐震・特定天井・長寿命化	機械設備	電気設備	その他
約15億円	約13億円	約7.6億円	約3.8億円
・耐震補強 ・特定天井の解消 ・陸屋根/ホール屋根の改修 ・内装/外装の改修 など	・エネルギー棟の新設 ・空調設備の更新 ・エレベーターの設置 ・貯水槽の設置 など	・音響/映像設備の更新 ・照明器具の更新 ・舞台照明の更新 など	・舞台吊物/緞帳の更新 ・備品 など

財源の内訳

国庫補助	地方債	一般財源
約9.1億円	約24.2億円	約6.1億円

※国庫補助や地方債については、概算見積りをもとに可能な範囲で工事の区分や内容等を細分化し、国庫補助や地方債の対象となり得るものを見込んで算出しています。

※国庫補助や地方債については、現状、国や県からの内示、又は事前の確認などを行う段階ではないため、国庫補助や地方債の対象外となる経費が含まれている可能性があります。

※国庫補助については内示率を100%として試算してあります。

6. 引き続き検討する事項

緞帳について

現在の緞帳は市民に親しみのある貴重な財産であると認識していますが、文化センター開館当初に設置され、60年以上が経過しており、劣化が進んでいる状態にあります。これまでいただいた利用者や市民のみなさんからの意見を参考に、現在の緞帳を引き続き使用する方法については、改めて吊物業者および緞帳業者と協議を重ねてまいりました。

協議内容

- 現在の緞帳は、緞帳を支えるフレームや裏地、チチ紐などの劣化が激しく、更新が必要である。
- 上記の更新により緞帳を吊るための補強方法はあるが、緞帳の耐久年数（50年）を超過している状況は変わらず、安全性は担保できない。
- 緞帳の生地自体の劣化も著しく、搬入出時やクリーニングおよび防災加工を施した際にさらなるダメージが予想され、現状の形や見た目に戻らない可能性が非常に高いため、業者としても保証できない。

 以上のことから、現在の緞帳を使用することは難しいものと判断し、断腸の思いのもと、基本設計においてはオペラカーテンを設置することとしました。

 ただし、取り外した緞帳の保存・活用については、別途経費が必要となりますが、貴重な財産として継承できるように、引き続き検討を重ねてまいります。

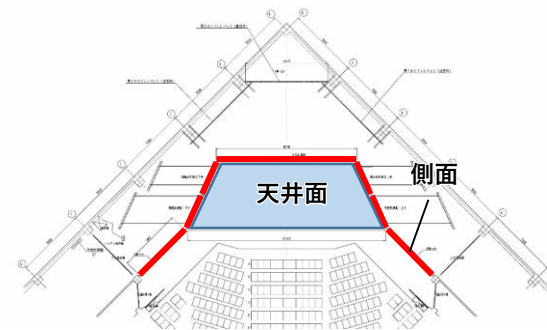
6. 引き続き検討する事項

反響板について

文化センターの音響については、建設当初のコンセプトのとおり「芝居や講演会など言葉をはっきり聞かせることに適したホール」としての特徴を活かしていくことを基本的な考え方としていますが、これまでいただいた利用者や市民のみなさんからの意見を参考に、反響板の設置については、改めて吊物業者および音響調査業者と協議を重ねてまいりました。

協議内容

- 文化センターのホールは特徴的な形状ではあるが、反響板の設置は可能である。
- 反響板を設置した場合の効果については、調査・検証が必要である。
- 反響板を設置するには、別途1億円を超える経費が必要となる。



反響板設置イメージ（上面図）

➡ 以上のことから、反響板の設置については、音響効果や費用対効果を検討する必要があることから、基本設計においては反響板を設置しないこととしますが、引き続き検討を重ねてまいります。

いただいたご意見について

次の段階に進んだ際には、緞帳の保存・活用および反響板の設置を含め、いただいたご意見の中で【検討】と回答した25件（本資料P2～4「1.市民説明会等開催後の意見と対応」参照）の検討を重ね、検討内容については議会や市民のみなさんに対して報告する機会を設けます。

リニューアル後の賑わいのイメージ図

